

APRIL MAY

29-1



YMCAせとうち 西日本豪雨復興支援 第2回リフレッシュキャンプのご報告

日程：4月28日（日）～29日（月） 余島わいわいキャンプ

【招待参加者30名】

4月29日（月）～5月1日（水） 第2回リフレッシュキャンプ

【招待参加者73名】



2018年9月に実施した第1回目のリフレッシュキャンプは、西日本豪雨で被災した子どもたち約40名を招待して、ここ余島野外活動センターで実施しました。それから約半年。期待に応える形で第2回目のリフレッシュキャンプを、同じ余島野外活動センターで実施することができました。

余島は小豆島の沖に浮かぶ、周囲2.2kmの小さな無人島です。島の全てがYMCAのキャンプ場で、毎年夏休みになると連日ここで子どもたちのキャンプが繰り広げられます。

今回のキャンプへは、定員80名のところに123名の申し込みがありました。そのため、40名以上の子どもたちを断らざるを得ない状況でした。しかし様々な団体からの寄附をいただくことで、1泊2日の「余島わいわいキャンプ」に40名の子どもたちを招待して差し上げる事ができました。

支援団体

Give 2 Asia・ベッキオバンビーノ実行委員会・リョービツアーズ（株）

岡山キリスト災害支援室・ワイズメンズクラブ西日本区

岡山ワイズメンズクラブ・日本YMCA同盟

（順不同）



子どもたちが思う存分、自分を表現し、自分たちのやりたい事を実現し、仲間と協力して何かを成し遂げる。そんなキャンプをリフレッシュキャンプとして実施しました。

出発当日は、吉備真備駅前に少し緊張した面持ちで、お父さんやお母さんと一緒に大きな荷物を持って集まってきた子どもたち。バスの中でグループのリーダーや、仲間たちと自己紹介をしていくうちに、少しずつ緊張もほぐれてきた様子でした。新潟山港から土庄港へフェリーに乗り、バス、渡船を乗り継いで余島に到着しました。

その頃になると小雨が降り始めましたが、グループごとに何をして遊ぶかを相談して、早速遊び始めました。女の子のグループでは、余島野外活動センターの阪田所長と一緒にテントを張り始めました。また男の子のグループでは、栈橋で魚釣りを始めるなど、グループごとに「やりたい」を次々に実現していきました。

2日目になると、少しお天気も回復したため、カヌー、カヤック、秘密基地作り、そして竹林で竹の子掘りをするグループもありました。また、阪田所長と一緒にタコ捕りに行った男の子たちは、3匹のタコを担いで意気揚々と帰ってきました。この竹の子やタコは、リーダーたちが天ぷらにしてくれて、みんなで分かち合いました。

夜は、前の日に天候不順でできなかったキャンプファイヤーをしました。燃える炎を90人で囲み、歌を歌ったりゲームをしたりして過ごしました。

最終日、やり残したことをグループでやり尽くし、来たときと逆のルートで吉備真備駅まで帰りました。遊び疲れてバスの中でウトウトしている子もいましたが、みんな元気に帰ってくることができました。

「災害以降、ずっと我慢をさせてきました。」そんなことを書いていた保護者がいらっしやいました。だからこそ、このキャンプでは遊ぶことを我慢したり、「どうせそんなの無理だろ！」っと諦めたりすることのないキャンプにしたいと考えていました。その点では、大成功の3日間だったと思います。大人にとっての3日間は、「たったの3日間」かもしれませんが。しかし子どもにとっての3日間は、もしかしたら人生を変えるほどのインパクトを持った3日間にもなり得ます。私たちは微力ですが、このようなリフレッシュキャンプを通して、災害を受けた子どもたちを支えていきたいと考えています。

今回は私たちの他にも、東京都のスクールカウンセラーをされている、臨床心理士の岩上真歩子さんにも同行していただき、グループを担当するリーダーへの助言と、子どもたちの支援をしていただきました。岩上さんは子どもたちに、「みんながこれから生きていく中で、雨が降ることもあれば道を見失うこともあります。でも、もしあなたたちが迷子になった時、見つかるまで必死に探し、見つけたら心の底から喜んでくれる人が必ずいます。」と語ってくれました。YMCAはいつもそうありたいと願っています。

プログラムディレクター：白鳥雅人

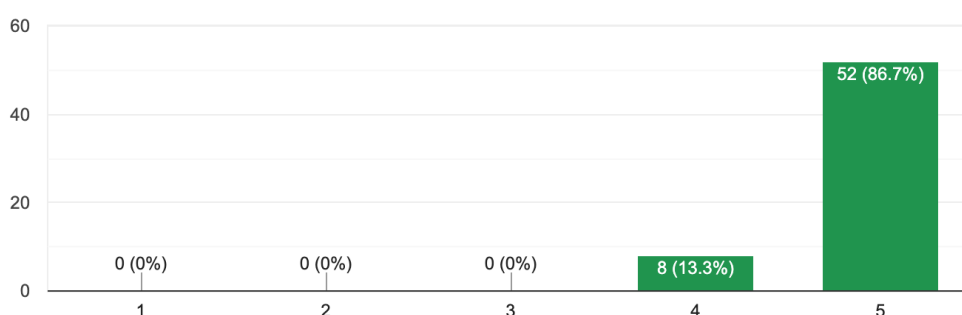
西日本豪雨災害支援招待キャンプ

余島わいわいキャンプ／第2回余島リフレッシュキャンプ

アンケートまとめ

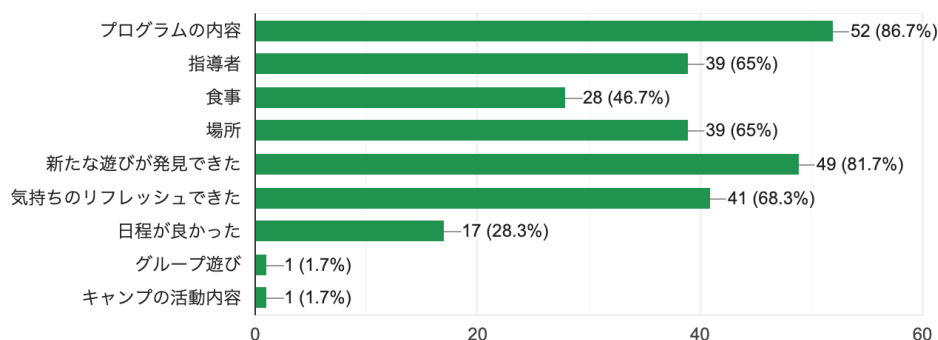
今回の活動のお子さんの満足度を教えてください。

60件の回答



その理由は何ですか？（複数選択可）

60件の回答



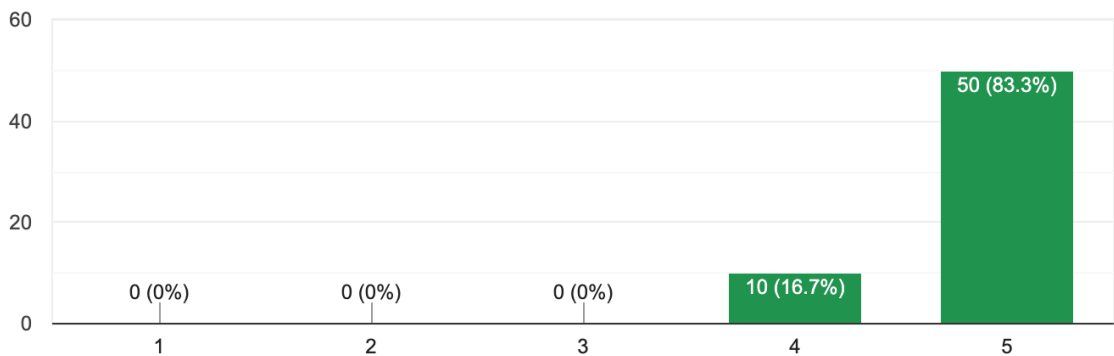
参加者満足度の理由（自由記述／抜粋）

- ・ カヌーや磯遊び、フェリーに乗ったり、キャンプファイヤーをしたり。何をやったか、楽しかったかを話してくれました。初日にもらったキャンプのしおり？の空いてあるところに、やったこと楽しかったことをギッシリと書いており、それも見せてくれました。
- ・ 信頼できる頼もしい指導者の方だったので、夜の探検も怖くありませんでした!!と自信をつけて帰ってきました。

- ・ 3日間が楽しかったみたいで、家に帰る車の中で泣いていました。リーダーや友達との別れがツラかったみたいです。帰ってからもパンフレットやしおりをずっと見ていました。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。
- ・ 不安がありつつ出かけた子供の感想が、「楽しかった」「また行きたい」だった。「リーダーにまた会いたい」と言いました。子供に書かせた感想文に書きなさいと言っていないのに「ありがとうございました」と書いていました。
- ・ 家で仕事をしているのと、下に年の離れた弟がいるので、お兄ちゃんがやりたいことや、泊まりなどでなかなか遊びに連れて行ってあげられないですし、周りに友達が少なくて男の子と遊ぶ経験も少なく困っていました。今回のキャンプは長い休み中で学校もお休みで次の日に疲れをとることができたので、子供も親もとても助かりました。

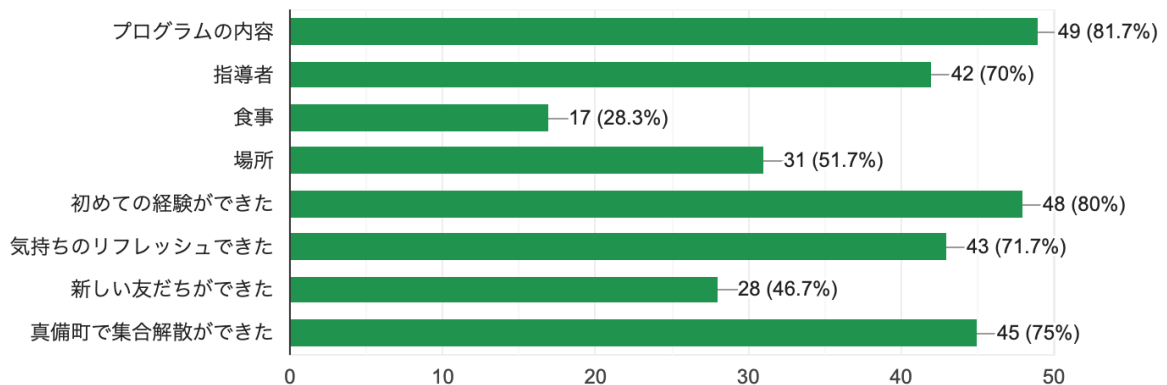
今回の活動の保護者の満足度を教えてください。

60件の回答



その理由は何ですか？（複数選択可）

60件の回答

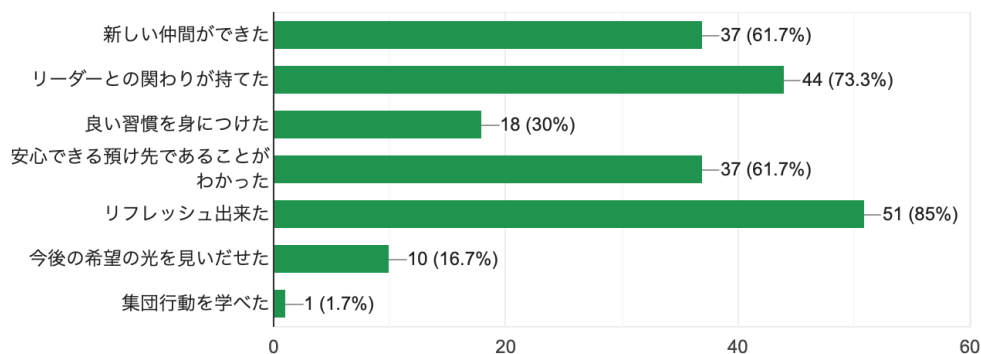


保護者満足度の理由（自由記述／抜粋）

- ・ 今まで生活していた真備から、離れての生活が続き、学校から帰っても友だちと遊ぶこともできず、外で思い切り遊ぶ事がなかなかできないので、子どもとても楽しむことができました。
- ・ GW であってもなかなかどこにも連れて行ってやれないなかの日程だったので親としても助かりました。YMCA は指導者がいつも良いので安心して預けられます。今回は特に島でのアクティビティだったので子供も大変喜びましたし、親も土産話にワクワクしました。
- ・ 帰ってきて、もっと居たかったと泣くくらい言ってたので、余程楽しかったみたいです。
- ・ 被災後なかなか子供をキャンプに連れて行く気持ちになれなかったので、とても有り難い企画で、子供自身も珍しく自分から行きたいと言ったので応募させてもらいました。
- ・ 正直 YMCA さんを知らなかったのですが、どんなグループなのかと不安もありましたが、丁寧なメール連絡や、解散時の挨拶、活動報告を丁寧にしていただき、何より子供が『楽しかった、また行きたい』と言っているのが一番の喜びであり、感謝しかありません。寄付金をこういう形で子供達の為に使っていただき、ありがとうございました。
- ・ 子どもにさみしい思いをさせないように、モノや家族や人との関わりの時間を与えてきましたが、それは比べ物にならない位、タコ釣りや、筍掘り、そしてキャンプファイヤー、カヌーなどの大自然の遊び、そして同じ班の友達と協力しながら過ごした3日間で、一回りも二回りもたくましくなったように思います。

プログラムに参加させて良かった、と思う事は何ですか？

60 件の回答



具体的な理由（自由記述／抜粋）

- ・ リーダーや、チームリーダーの質が高い。
- ・ 小豆島にカヤックで渡れた！と嬉しそうに話してくれます。新しい友達も出来たみたいです。
- ・ YMCA のキャンプは安心して預けられます。最も大事な理由です。
- ・ こういう取組をされてる、YMCA さんを初めて知ることが出来、なおかつ、信頼して子供を預けれる事がわかりました。リーダーさん達もみんな元気で若く、なかなか触れ合う機会がない年齢の方と触れ合え

て、子供も新鮮な楽しい時間を過ごす事が出来たと思います。

- ・ こんなに子供が楽しかったと言って帰ってきたのは初めてです。
- ・ リーダーの皆さんの子どもへの関わりをみて、安心してお任せできると思いました。
- ・ 今回は荷物がたくさんあったにも関わらず、完璧に自分の荷物を持ち帰って来ました(前は友達の着替えを、間違っって持ち帰ってました)しかも全てきれいにたたんでリュックに入れていたので、成長したなーと思いました。
- ・ ゲームやおもちゃ、普段の遊びとは比べ物にならない位、楽しい3日間だったといっています。

保護者の感想

- ・ 参加料が高いので最初は検討すらしていませんでしたが、参加させてみるとその費用に見合う内容だったので納得しました。リーダーがしっかりしているのは組織としては当然だといえますが、チームリーダーの質の高さに驚きました。
- ・ 私も大きくなったらリーダーになるととても嬉しそうに話をしてくれます。
- ・ 残念ながら二泊三日のキャンプにはもれてしまいましたが、なんと募金を募ってまで参加を可能にしてください、本当に嬉しかったです。信じられませんでした。
- ・ 災害はピンチですがこのようなチャンスをいただけてとても救われる気持ちがします。辛抱することや制約の多い生活なので、キャンプは子供にとって何よりの機会です。それを体験させてやれたことで親も心が少し軽くなりました。
- ・ 今は真備を離れて転校しましたが、久しぶりの友達との再開と交流が持てて楽しそうでした。
- ・ たった三日間ではありますが、親以外の他者(リーダー)に信頼をよせる様子を見て、子供の新たな面を見れたような気持ちです。親としても子供がいない日を久しぶりに過ごし、寂しいなとも思いましたが、自分の時間を持つことができ休息をもらえたように思います。
- ・ まだ一年生なこともあり、親元を離れることにも心配をしていました。ですが、親のことは忘れてたーと言うくらいキャンプを満喫したようでした。
- ・ 災害から1年近く経とうとしているにかかわらず、まだまだ支援していただきありがとうございます。
- ・ 我が家は2階の床上まで浸水して、築4年の自宅は全壊。再建までの半年余り、主人の実家がある高梁市に転校、転園を余儀なくされました。被災して7か月で真備に戻りましたが、学校の再建はまだ1年先。家財道具をほぼ失ってしまったため、自宅の生活環境が完全に整うまでにもしばらく時間がかかりました。それゆえ、子供達の「遊び」について真剣に考える余裕が、正直ありませんでした。
- ・ 子供達と連絡の取れない状況でこんなに会えないのは初めての事なので、私も夫も心配で心配で…寂しくて仕方ありませんでしたが、親はなくとも子供達はなんとかやれるもんなんですね。「親離れ」を経験せるつもりが、親の方が「子離れ」という試練を味わう三日間だったのかもしれない。
- ・ 沢山我慢やストレスがある中、今回、沢山体を動かし、普段出来ない経験や遊びを沢山させていただいて、とってもらいフレッシュできたと思います。